

進路だより

箕輪進修高校 進路指導室

2011.2.17

No. 78



ケジメを忘れずに！

今月初旬、昨年度本校を卒業した生徒が入社した会社の社長さんから進路室に次のような電話が入りました。「前日に少しきつく叱ったところ、先月16日から会社に出て来なくなりました。その後電話したが全く電話に出ないので、自宅まで行ったが出て来ず家の中にいるのかも分からない」といった趣旨の内容でした。その後私の方からも本人に電話を入れましたが全く通じず、担任の先生にも対応をお願いしましたが、連絡が取れず、私から手紙を出しておきました。

皆さんも会社に入ってから上司に叱られたり注意されたりすることは少なからずあると思います。そんな時直ぐカッとなって辞めてしまったり、この生徒のように何の連絡もなくずるずると逃げてしまっても困ります。少なくともこの例のように、ただその場から逃げているだけではだめです。どうしても行けないならば、きちんと上司に話をしてそれなりの手続きを踏まなくてはならないでしょう。それが世の中のケジメです。

世の中に出ると大人としてのケジメを付けなくてはならないことは多くあります。無断遅刻・無断欠勤はしない、上司への言葉遣い、きちんと挨拶をする、会社の備品等を勝手に持ち出さない等々、ケジメをわきまえなくてはならないことです。これまでは曖昧で過ごせたことも、社会人になればこうしたケジメをきちんとわきまえなくてはなりません。普段きちんと教えられていないことかもしれませんが、これから社会生活のケジメを自分で身につけていかなくてはなりません。もしそうしたケジメが無くなると人としての信用に関わってきます。

親への感謝を忘れずに



いよいよ高校生活もあとわずかとなりました。皆さんの多くはようやく高校を卒業できるという喜びをかみしめつつあると思いますが、皆さんとはひと味違った感慨を皆さんの親も感じているでしょう。皆さんが産まれた当時、親にとって皆さんの誕生をどれほど嬉しく感じたかしのれないでしょう。病気にかかった時はどれほど心配して看病に当たったかしのれないでしょう。保育園、小学校、中学校と皆さんの成長を見守りながら、その成長を密かに喜んでいただいでしょう。そして今高校を卒業する時を迎えつつあります。就職する生徒はいよいよ独り立ちをして行く時期でもあり、親からは少し手が離れていくときでもあります。進学する人も親元を離れていく人も少なくありません。親にとってはそれだけに皆さんとは違った感慨ひとしおのものがあるはずで

今となれば自分一人で育ってきたように感ずる人も少なくないでしょうが、親が皆さんを陰に日向に支えてきたことをもう一度かみしめて欲しいものです。これまでの18年間には皆さん自身にとっても、家族にとっても色々なことがあったでしょう。その間ひたすら皆さんを支えてきたそうした親に対して少しなりとも感謝の思いをこの機会にもう一度かみしめてください。まだまだ親に世話にならなくてはならないと思いますが、親にとって何よりも嬉しいことは我が子がきちんとした仕事に就き、頑張っている姿を見ることでしょう。親に余計な心配や、苦勞をかけることのないことが何よりも親への恩返しです。それぞれの活躍を祈ります。

